

## 大雨が現場作業者を悩ませる・・・

9月中旬の大雨は、現場工程に著しい影響を与えた。管内の総雨量は多いところで500mmを超える。

新規工事箇所である大蔵(おぞう)谷では、糸を引くような雨が降った(写真①)。内(うち)谷では、本川、支川合流部の切り回し道路が被災を受けた(写真②)。支川側の流量もかなり大きいことが見て取れる(写真③)。大谷(おおたに)川では、大量の土砂が流れ出し、アクセス道(写真④)、補強土壁内(写真⑤)へ流出が見られた。

そんな中、台風12号の被災を受けた越波(おっぱ)谷は、二次復旧工事に着手した(写真⑥)。

また、9月27日には先日のテックフォースの派遣に続き、佐藤事務所長他3名が和歌山県に出発(写真⑦)。当事務所で培われた経験が、和歌山の地で再び活かされることが期待される。



## 雨にも負けず・・・、進む工事現場

工事完成を迎えた宇津志(うつし)谷。完成した堰堤には、手形が張られた(写真A)。これは、現場代理人が企画した地域コミュニケーションの1つ。手書きの暖かさにこだわった現場代理人の手書きボード(写真B)が堰堤の部分完成(写真C)に花を添えた。大谷(おおたに)川では、気泡混合盛土(写真D)、小口径杭(写真E)の施工が進む。



日洞(ひぼら)谷では、国道交差部の拡幅が完了(写真F)し、管理用道路も姿を見せ始めた(写真G)。内(うち)谷では、ブロック積みの天端コンクリート打設の準備(写真H)が進み、大蔵(おぞう)谷では、樹木伐採が進む(写真I)。

色付き始めた紅葉を横目に、現場作業は次のステップへと進む。

